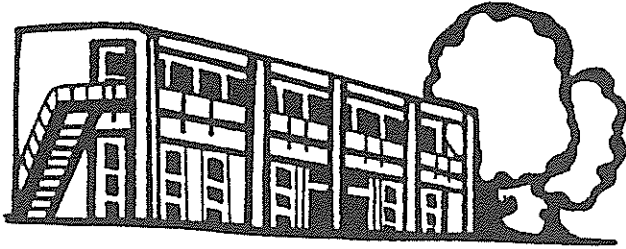


chcにゆーす 中央聖書学校



「権威(エクスウシア)」には様々な概念が含まれている。一般的に、オリソリティー(権威)ライト(権利)、リパティー(自由特権)、アビリティー(権能)、ケーパビリティー(可能性)、スーパナチュラル・パワー(超能力)、ルーリング・パワー(支配力)、ガバメント(統治)、ジュアリスディクション(司法権)等々である。ここで、主イエスは「天においても地においても」という領域ばかりではなく、「いっさいの」という種類においても全てを含める、「権威」を宣言しておられる。

一般的に、教育の権威(オーソリティー)は、ある領域においてすぐれた能力を有することを資格づけとしてい

イエスは彼らに近づいてきて言われた、「わたしは、天においても地においても、いっさいの権威を授けられた。それゆえに……」マタイ二八・一八、一九。



「天と地との一切の 権威のゆえに」

佐布正義

〔中央聖書学校の依拠する処〕

る。その意味においては、神学教育、聖書教育の領域においてもその資質は求められる。しかし、今日においても神学校教育の究極の権威は、主イエス・キリストにある。そして、その権威の委託においてのみ、この権威の行使である「弟子」とする訓練・教化が実施されるのである。

元来、「神学は諸科学の中にあつて女王の座に位するもの」(ヘンリー・シーセン)と言われてきた。それは、原來的に諸科学を統合する役割を担うという意味においてはもちろんであるが、本来、その権威が創造主なる神に属し、その神に関する学問はあらゆる理念とその適応に先行するという意味において王座に位置すべきものであった。従って、唯一神観(キリスト教的)を離れた場合、教育の総合的原則を見失なうことはもとより、多元的価値観の中に埋没した教育は、もはや、真の権威を失なつてしまひ、単に部分的な価値



値である効用主義に活路を見出そうとせざるを得なくなる。

そういう意味において、中央聖書学校の教育は、単に「神に関する」、あるいは「聖書における」、または「宣教論における」教育であるにとどまらず、それは一個の人間に対しても、全人教育(ホーリネス)とならざるを得ない。また、主イエスご自身を体験することにおいては、真の宗教的認識の場であり、大悟に到る道場でもある。また、その実践においては「あらゆる点において成長し、かしらなるキリストに達する」理想的な生の場でもある(エペソ四・一五)。

この訓練の間に、受肉のキリストが語られた「天と地との権威を明確にすると同時に体験的にこの権威を委譲されるのである。この体験が「召命観」の確立であり、ただ単に主観的な思い込みを排除して、真に権威を委ねられた「主の弟子」としての資格を備え、主の派遣に適する者とされるからである。

チャレンジ

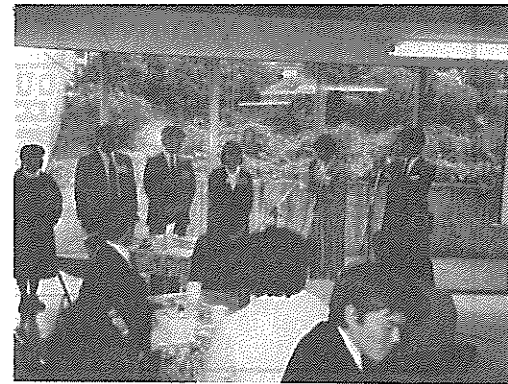
献身者表明者準備会

一九八九年の十一月二十三日、神学校の食堂に於いて、献身表明者準備会の昼食会が開かれました。この会は、献身表明者に、神学生と共に昼食を取り交わりを通して、少しでも神学校の雰囲気を知ってもらうため、また献身への道が開かれることを祈りあうために、催されたものです。

「霊に燃え主に仕え」の賛美の中、七名の献身表明者が、迎えられました。表明者の自己紹介の後、食事をしながら、各テーブルで交わりの時が持たれました。それぞれのテーブルマスターを中心に、神学生の自己紹介献身の証詞などを通して、どのテーブルも和やかに交わりが進められていったようです。

食事が一段落した後は、神学校の一日の説明で、楽しい動く紙芝居を見せていただきました。

そして一人の神学生による献身の証詞と、また学年より一人ずつ四人の神学生へのインタビュの時がもたれました。それぞれの神学生の個性がよく出ていて、参加者もその個性の豊かさに驚かされたのではないのでしょうか。



編集後記

風薫る五月とか、五月晴れと言うには今ひとつの天気五月も終わってしま

交わりは尽きない様でしたが、最後に弓山校長先生がお祈りして下さいました。私達も、主がこれらの兄弟姉妹に働かれ、御心の時に神学校へ導かれることを心よりお祈り申し上げます。

中央聖書学校学生募集

宣教のビジョンに燃える
若者よ、来れ！
入学資格 受洗後2年以上を経た忠実な教会員であること
出願手続 本校所定の入学願書に必要事項を記入の上、メ切日までに下記のものを添えて提出のこと
①最終学校の卒業証明書および成績証明書
②健康診断書
③入学検査料5,000円
本校 豊島区駒込3-15-20
TEL 03-918-4925
関東分校(夜間) 〃
関西分校(夜間) 〃
西宮市鳴尾町1-10-7
TEL 0798-41-4428
入学案内は所属教会牧師にお申出下さい。

駒込は大会の中とは思われないような緑と静けさにつつまれております。足許には可憐な草花が目にとまり、時折、ヒヤラヤ杉の大木の枝の中から鳥のさえずりも聞こえてきます。池の鯉もずいぶん大きくなって、水面に跳びはねる音を出してくれまふ。まさにここは楽園のようです。

四月に入学してきた学生たちも、もうすっかり駒込の住人となり、学校生活にも溶け込んで祈りに、学びに、伝道にと励んでおります。

ここからすでに四三二名の伝道者が送られ、日本各地、いや海外にまでキリストの福音をたずさえて宣教のわざにつとめていることを思うと感謝にあふれます。

「収穫の10年」を合言葉にますます、

福音の前進と拡大に邁進してゆかねばなりません。アッセンブリー一九九九の目標を達成するための鍵は献身者が起こされることにあると言つても過言ではないでしょう。少くとも三〇〇人以上の献身者が必要なのです。

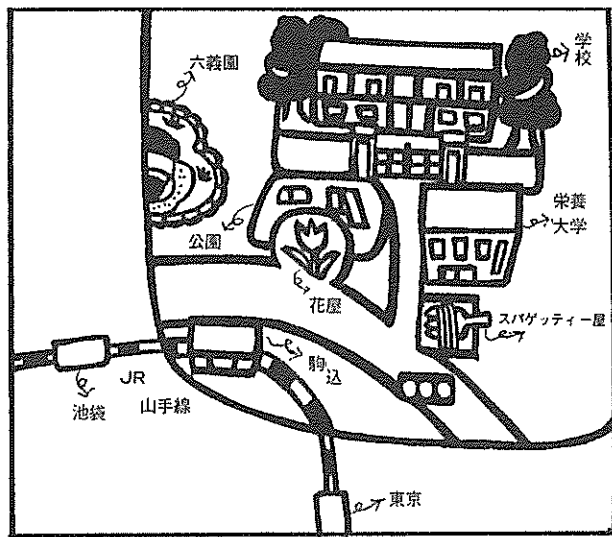
主が言われたように、「働きは多く、働き人が少ない」のです。どうぞ働き人がどしどし駒込山に送られてくるように祈って下さい。

あなたの祈りが神のみ手を動かし、世界を変えることを覚えて祈りつづけて下さい。(Y)

発行・一九九〇年六月一日
事務局 〒170 〇三九一八(四九二五)
東京都豊島区駒込三二一五二〇
中央聖書学校
編集者 石原嘉宣
山城晴夫

神学校の周辺

—案内—



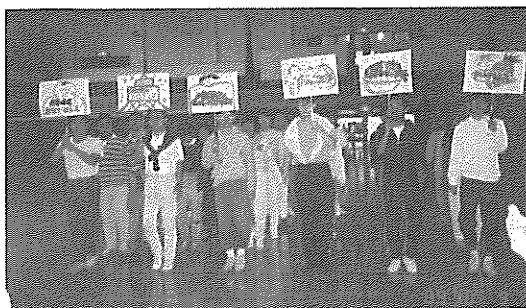
C・B・Cは、都内においても古い歴史をもつ文教地区駒込にある。近くには、柳沢吉保ゆかりの庭園「六義園」や、ソメイヨシノ（桜）発祥の地である染井墓地などがあり、四季折々に美しい姿をみせてくれる。

閑静な地に位置しながらも、交通の便にすぐれ、JRを利用すると東京駅から約二〇分で駒込に着く。駅から学校まで徒歩七分。バス通りを少し入ったならかな坂道の上に、学校はある。門柱の石にぎざまれた「中央聖書学

校」の文字、これに手を置き折られた方も多いという。讃美と祈りにつつまれた学舎で、伝道の第一線での働きの為、今日も学生たちは学びをすすめている。



神学校の春夏秋冬



左上の写真は、秋のバレーボール大会。日頃の運動不足をこころざとばかり解消しています。

左下の写真、広い敷地内の雪かきは大変。しかし、これも将来への訓練の一つです。



右上の写真は、およそ三十年ぶりとも言われる、弓山先生司式の聖餐式です。



右下は、神学校の敷地内に見事に咲く桜です。毎年、入学式に色を添えてくれます。

授業レポート

現在、C・B・Cには基礎課程Aから専門課程Bまでの三十七名の学生、及び二名の聴講生が学んでいる（本校のみ）。

火曜日から土曜日まで、各々のクラスにわかれて授業がすすめられているが、選択科目によっては、新入生と最上級生の混合クラスなどもたれることがある。

時間割については、表を参考にさせていただいて、今回は、授業の中からいくつかを「授業レポート」というかたちでご紹介したいと思います。

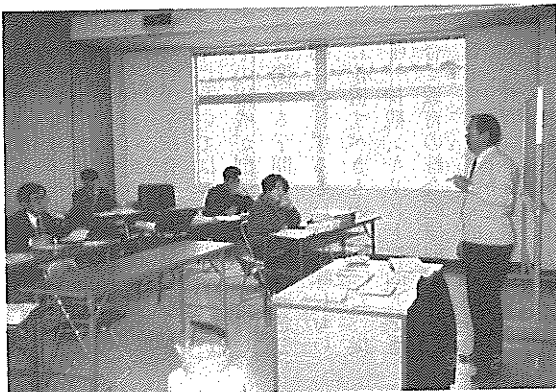
時限	I	II	III	IV
曜日	9:15~10:20	10:20~11:15	11:25~12:20	1:10~2:05
火	旧約概論(山城)	新約研究法(細井)	歴史書(細井)	聖霊論(弓山)
	英語(菊山)	英語講読(白石)	哲学(白石)	ギリシャ語III(佐布)
	組織神学IV(佐布)	教会学特講(弓山)		
水	西洋史(上原)	使徒行伝(山城)	青少年伝道法(久保田)	ヘブル書(山城)
	規則(細井)	異端研究(白石)	教会史(上原)	伝道学(白石)
	新約概論(佐布)	共同書簡(石原)	個人伝道法(石原)	教授法(佐布)
金	説教学(伊藤)	解釈学(伊藤)	組織神学II(佐布)	
	ギリシャ語II(佐布)	(IIIのみ)歌唱法(大森)		
	音楽(大森)	コリント書簡(石原)		
土	Oral English(北野)			

オーラル・イングリッシュ(北野ジョイス師)

「あなたもビリーグラハムになれる。」「アインシュタインにだってなれる。」

ときには、教会の礼拝に遅れそうにもなります。そんな様々な人物に扮し、いろいろな状況の中で、英語を会話する。ジョイス先生の工夫と、私たちの遊び感覚が、こんなクラスを産み出しました。

もちろん、しっかり、発音の練習をします。(ちよつと音声学) イデオムもやります。(ちよつと文化論) 歌も歌います。(ミュージックノ) 内容盛り沢山。そうそう忘れていました。やっぱ



り神学生ですから、聖書のみことばを覚え、メッセージ、証詞をしなくては……。当然、英語です。

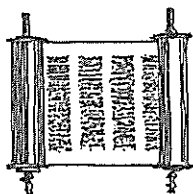
興味シンシン、刺激ビンビン、短い二時間が過ぎていきます。

哲学(白石慎男師)

哲学の授業は、基礎Bの7名が出席している。哲学は、古代ギリシャ哲学から現代実存哲学に至るまでを学びます。今日の授業は、プラトンのイデア論について。

教えて下さる白石先生は、哲学博士であり、その道の専門家であるため、授業にも情熱が漲り、その迫力が自然と授業を受けている私たちに伝わってくる。難かしい哲学的用語や、哲学思想についても、ユーモアをもって、わかりやすく教えて下さる。

哲学は、これから受ける組織神学や専門科目を学ぶ上で必要な学科です。授業後は、いつも真理の真実性と、神様の知恵の深さを益々感じさせられています。



神学校の データーバンク

今回、読者のみなさんに神学生についてもっと知って頂きたいと思い、このデーターバンクを載せました。これを見ていただければ、神学生の年齢層や出身地などが一目で解ります。

献身する前の職業としては、男性でサラリーマン、女性では保母が多かったようです。他にも、自衛官、看護婦、美容師、学生、フリーター、教師等々いろんな人が駒込山に召し集められています。

神学生の経済（収入と支出）の内訳を表にしました。献身を目指しておられる方はご参考ください。

また他には、神学生が読んでる本のベスト5をアンケートで調べました。応えの中にはナルニア国物語、信徒の友等がありました。一般社会の情報も積極的に取り入れている人もあるようです。聖書は平均10冊くらいみんな持っているようです。宣教のために必要なのは「祈り」と答えた人が多く、午後七時〜九時の祈禱室はラッシュアワーです。また、私たちの健康を支える、食事ものたいへんおいしいです。

入学前にしておいたことは、後になって大きな益となるようです。（全員一致）ご参考になったでしょうか。これは神学生の規準ではありません。実生活のデーターです。（何か考えて）



文学（文楽？）（菊山和夫師）

基礎Aだけにゆめられた恵みの時間。何故ならば、理由①たった3人で菊山先生を独占してしまう。②テキストは先生自ら紀ノ国屋、教文館、八重洲、丸善等々歩かれ、十円単位切捨ての特価価格で学生の手に渡される。その本は現在3冊。内容は、星の王子さまから矢内原忠雄まで多種多様。（先生の書を一度拝見してみたい）③1対3では先生にすぎないね、と語る学生など目に入らぬ様な先生の文学への情熱。文学よりも、少女漫画の主人公の様に

目を輝やかせて語られるその姿に魅了されてしまいます。

たったの3人、先生、たまにはお茶でも飲みながら文学について語りあいましよう。なんて言ってみたい。しかし何分持続できるかと思うと、やっぱり言い出せない私達。

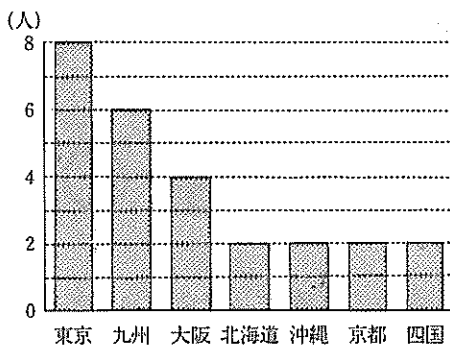
組織神学（佐布正義師）

テキストは、ヘンリー・シーセン著の「組織神学」この授業に出席しているのは、専門Bの十名。卒業をひかえた四年生ばかりということもあり、自然授業も熱をおびてくる。

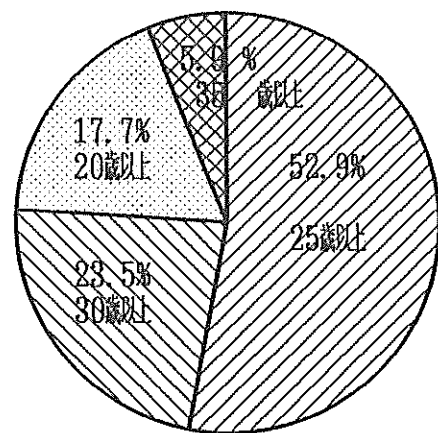
今日は、第三章、教会の礼典（教論）についての学び。知的学びに加えて、世界情勢などをおりまぜながら、学びの幅を広げて下さる佐布先生。学生の質問も、神学的なものから実際のものまでバラエティーに富む。

組織神学は、二年間を通じての学びであるが、自らが体験したキリストを、神学的学びを深くすることによって、客観的になお知る土台となる学びである。

堅いテーマをとりあつかっているが、時にユーモアを交えての先生の講義は十名で独占するのがもったいないの感がある。



学生の出产地別人数



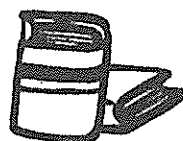
在学生の年齢別割合

- 1 賛美の力
- 2 キリスト教第3の波(正統)
- 3 謙遜
- 4 祈ることを教えて下さい
- 5 弟子への召命

神学生が読んでいるベスト5

収入	支出
教会から	学費+寮費
教会+自費	本代
自費	洗剤等の生活諸費
家族の援助	その他
その他	

神学生の経済



1. スパゲッティ
 2. ハンバーグ
 3. からあげ
- 他、ぎょうざ、しゅうまい、ひじきの煮物あり

食事ベスト3



牧会学特講（弓山喜代馬師）

テキストは、C・H・スポハジヨン著「説教入門」専門A・Bの男女16名での授業、英語のテキストに頭を悩ませながらも、習うより慣れろと自分を励ましつつ、一同励んでいる。

弓山先生の長い伝道者としての経験からなされる講義は、そのままで一冊の本になるほどのものである。

牧会者として、召された者として、いかにあるべきか……。ひとつひとつの先生の言葉を通して、心さぐられチャレンジを受けている。

教会史（上原和雄師）

テキストは、E・ケアンズ著「基督教全史」授業開始と同時に、専門Aの七名の男女の視線は上原先生に釘付けになる。今日の授業は、中世の学問と礼拝について。

上原先生は講義で熱が帯びてくると、「質問はありませんか、質問はありませんか、質問はありませんか」と連発される。それだけ先生は授業に集中しておられるのである。

この授業は、およそ二千年の教会史

の中から、各時代の政治、社会、思想などの動きについて学ぶことを通し、キリスト教の効果的理解を得ることを目的としている。

神学校の特色ある授業の中でも、大変興味深い学びである。

解釈学（伊藤順榮師）

テキストは、バーナード・ラム著「聖書解釈学概論」

今日は、テキストからの講義の他に学生たちに割り当てられたテキストの箇所を、それぞれが発表する時である。解釈学のうへの「歴史的諸学派」を、各自が調べ発表した。哲学的用語や、思想体系にみな悪戦苦闘。でも、受け身ばかりでなく、自分で調べることに一層理解を深めることができた。

使われているテキスト自体、歯ごたえのあるものだが、なかなか整理することの出来ない難解な事柄が、伊藤先生によって、まるで棚の中に物が整理され、並べられていくようにわかりやすくなる。スバラシイの一言につき

私の目指す教師像

3年 長尾 有二

ある、伝道者が「モーセのような人になりたい」と祈っていました。ところが、いつまでたっても誰も「モーセのような人だ」とは言ってくれません。それではと今度は「アブラハムのような人になりたい」と祈りました。ところが、いつまでたっても誰も「アブラハムのような人だ」とは言ってくれません。「主よどうして、私の願いをかなえてくださらないのですか。」と祈っていると。主がこの伝道者に語りました。「あなたは、あなたになれ。」

外国の有名な牧師や日本の有名な牧師、身近かな牧師の顔を浮べながら私の目指す牧師像を思い巡らしているとき、上述の話が思い起こされました。

主は一人一人に計画を持っておられます。主は私をどのような器として造ったのか。主のご計画（みこころ）を知ってそのために生きる、これこそ「あなたは、あなたになれ」ということではないでしょうか。主のみこころを求めて祈っている現在ですが、残りの二年間でみこころをしつかり握りたいと思っています。そんな中で現在得ているキーワードは「希望」です。人々に神さまからの生きたメッセージを語り、人々に将来と希望を与える牧師になりたいと思っています。

今、私の祈り

4年 金城 真弓

郷里伝道

4年 大久保 仁

東北・北日本の福音宣教は難しいと言われていますが、たとえ困難のように思えても、全能の神に寄り頼むならば決して難しくないと確信しています。又、マルコ13章26節にも「イエスは彼らを見つて見ていわれた『それは人にはできないことです。しかし、神にはどんなことでもできるのです。』」とあります。

東北の旧家に生まれ育った私に、主は「郷里伝道のため立ち上がれ！」と召しを与えて下さり、モーセのごとく立ち上がるようにと語られたのです。ですから、この様な地域に福音を提供するのが私のビジョンです。

それには、今までのキリスト教の概念を打ち破るペンテコステの伝道牧会が必要とされると思います。それは、聖霊の力に満たされて伝道し、人々への罪の赦しと全てののろいからの解放、癒しの恵みです。生きることへの希望を大胆に宣べ伝えることです。十七世紀、私の故郷には、約三千人のキリスト信者がいたと言われており、その多くが殉教しました。私はこの地のキリスト教信仰の復興と土着化を最終的に願っています。

『彼らは信仰によって国々を征服し...』

(ヘブル11・33節)

私は神様に祈りを献げるようになって数年がたちました。救われて間もない頃、自分の願いだけを叫んでいた私ですが、他者を覚えてのとりなしの祈りを献げられるように変えて下さっていることを感謝します。

祈りは霊的呼吸だと言われていますが、その通り欠かすことのできない神様と交わる唯一の方法であり、クリスチャンの力の源泉であると実感しています。そしてペンテコステの恵みを受けた私達にとっては、知性の祈りと共に異言をもって霊の祈りを授けられていることも特権です。私は祈る時、二つの御言葉を心に留めています。ルカ9章35節「これはわたしの子、わたしの選んだ者である。これに聞け」とローマ8章26節「御霊みずから言葉にあらわせない切なるうめきをもって、私達のためにとりなして下さるからである」主の元での祈りは、静まって御言葉を聴く姿勢を大切に、とりなしについては神の時まで継続した祈りをと願っています。

「祈らないことの代償は祈れなくなることだ」という言葉は、忙しさに紛れて怠惰になりやすい私への黄信号、そして充電すべき場所への誘いでもあります。今、私は祈りを通して祈りを教えられ、主の生ける御業を待ち望む者となり、生涯主の元で主をほめたたえる者とならせていただきたいと切に願っています。

特集

神学生の声

声...今号では普段、中々聞く機会のない神学生の生の声を皆さんにお届けします。数人の学生に色々なテーマをもとに書いてもらいました。

神学校のリバイバル

3年 勝 郁磨

神学校のリバイバルとは、やはり神学生の内面的改革にあると思うのです。その為には私達が自分自身の今ある姿を第三者の目をもって吟味する必要があると思います。もし、レントゲンで自分の心の中を写したならどうでしょうか。そこに写されるものは、恐らく頑なな心、人を受け容れることができず、弱さ故に裁いてしまう自分の姿を見せつけられるのだと思うのです。

しかし、主が本当に求めておられるのは私たちの砕かれた魂、悔いた心なのです。(詩篇51:17)

今、私はこのことの為に祈っています。私だけではありません。全神学生が主の前にへりくだり、悔い

異端―手をこまねくことなく―

2年 中 江 美早子

今日、日本において数々のキリスト教を背景とする異端や、新興宗教が次々に起こり、浸透してきています。それらの増加は、日本のキリスト教会の信徒数を上回るほどに驚くべき成長を遂げています。彼らの特徴は、組織化され、その組織に絶対服従するように訓練されています。その結果、人格の荒廃や家庭破壊、更には社会的問題までも引き起こしています。終末におこる現象とはいえ、私たちはただ手をこまねいていて良いのでしょうか。異端や新興宗教について詳しく知らないし、深く関わりと怖いといは彼らの誤りを指摘することのみに追われ、救うどころか傷つけたりしてはいないでしょうか。彼らもまた、真理を求めているのです。

私たちは満ちあふれる恵みによって救われ、そして真理の言葉をまっすぐに説き明かす者として召されています。主が私たちに求めておられるのは、御霊の実を培った熟練した者として、真理のみ言葉である聖書を正しく伝えることだと思います。私たちがそうする時、組織のペールが剥がされ、本当の意味での真理を彼は握るのではないのでしょうか。そして、共に神をほめ賛える事ができると信じます。



『私の得たもの、失ったもの』

3年 村岡 昇

私は、今年で三年目の神学校生活を迎えます。この中で、多くの信仰の友を得、知識において霊的取り扱いにおいて、豊かな恵みをいただいています。

入学当初、私は今までの経験・能力に頼り、とすると、自分の力だけでやっていけるかのように考えていました。自分の信仰スタイルの殻に閉じこもり、他に対しては、非常に排他的で、「あ、あれは自分の教会の形式と違っている、今まで触れてきたものではない」とか「自分は、あのやり方は嫌いだ」という具合で。常に「自分・自我」が前面に押し出されていたのです。

しかし神様は、その「自分・自我」を捨てようように、また失うようにと、示されたのです。そして愛と寛容をもって日々触れてくださいました。ちょうどイソップ物語の「北風と太陽」のように神の愛というあたたかさの前に、自我が一枚一枚脱がされていったようです。そして、自分の思い、自分の考えという着物を脱がされたかわりに、神様の思い、神様の考えという新たな衣を着せていただきました。今、古き「自分・自我」を失いつつ、神の恵み、神の愛、神にのみ信頼することを得ている途上です。